



大分合同新聞
ワークシート

大韓航空が大分ーソウル線を再開する。使用する新型エアバス (同社提供)



大韓航空便来月再開へ

大分ーソウル、3月まで

韓国人客 需要戻る

大韓航空は5日、大分空港(国東市)と韓国・ソウル(仁川)を結ぶ航空便を来年1〜3月に再開すると発表した。日韓関係の悪化などで連休が続き、約5年ぶりの復活となる。新型コロナウイルス禍が和らぎ、冬季に大分県内で温泉やゴルフを楽しむ韓国人客の需要が戻っていることが背景にある。大分ーソウル線は、他の航空会社も1月から増便する予定で、県内の観光地には誘客の追い風になりそうだ。

大韓航空の運航期間は来年1月20日から3月30日まで。月、木、土曜の週3回、往復する。いずれも仁川発が午後1時50分、大分到着が同3時半。折り返しは午後4時半に大分を出発し、同6時35分に仁川に着く。機体は昨年末に導入した新型のエアバス(182席)を使う。

同社の大分ーソウル線は1992年に就航。通常の定期便で運航した時期もあったが、2015年以降は冬季に限定したダイヤを編成している。19年2月から休止していた。

再開決定について、同社は「新型コロナウイルスの影響が減りニーズが回復した。冬の温泉は韓国人に人気が高い」と述べた。

県の調査によると、県内に宿泊する外国人客のうち最も多いのは韓国人で、全体の約半数を占める。今年10月は同国からの宿泊者が約4万6千人に上り、日韓関係が悪化していた19年10月に比べ8倍超になった。年間では2〜3倍が多くなる

傾向にある。

ハイシーズン控え、大分ーソウル間で6月から定期便を飛ばす格安航空会社(LCC)のチェジュ航空も、来年1月に週3便から5便に増やす。大韓航空と合わせると、1週間当たりの座席数は現在の約2・6倍に増え、輸送力が大幅に強化される。

県内では歓迎の声が上がる。県旅館ホテル生活衛生同業組合の西田陽一理事長(62)は「韓国からの直行便が増えることは、大きな追い風で明るい光だ。コロナ禍からの復活の象徴ともいえる。私たちもチャンスを生かしたい」と語った。

佐藤樹一郎知事は「冬季限定となるが大分の温泉やゴルフ、冬の味覚を存分に楽しんでほしい。多くの県民にも利用してもらいたい」とのコメントを出した。

(大塩信)

〔問①〕冬季に韓国線を再開するのは、韓国人客の需要があるからです。どういった需要でしょう。

温泉やゴルフを楽しむ

む

〔問②〕大韓航空が再開決定した理由は何ですか。

新型コロナウイルス

の影響が減り、ニ

ーズが回復したから

〔問③〕佐藤知事は「大分の温泉やゴルフ、冬の味覚を存分に楽しんでほしい」とコメントしていますが、韓国人客にあなたがぜひ楽しんでほしいと思う大分の魅力は何ですか。具体的に挙げてみよう。

※自由記述